

長久手町有形民族文化財

記

- 一、前熊の多度神社に牛頭天王を祭神とする津島神社が合祀されている、この祭礼（お天王祭り）が毎年夏に行われている。
- 一、この祭礼は、永禄五年（一五六二）頃から行われたと記録されている。
- 一、山車は、天正五年（一五七七）赤い提灯を点した山車を曳き、その高欄で山神楽を奏し打囃子太鼓を打つと記されている。
- 一、文政五年（一八二二）の寺社奉行所への由緒書上に「天王祭礼ニ付キ、提灯車出シ申候、最初年曆相知不申候」との記事がある。
- 一、時代の変化と共に、紆余曲折があり運営組織も年々変わってきましたが、基本は保存会が継承し、現在まで伝わっている。

昭和五八年町有形民族文化財指定

（前熊の山車）

「山車とお天王まつり」

この山車は、津島神社の祭礼（お天王まつり）に曳き出されるものであり、言うまでもなく、牛頭天王を祭神とする津島神社の祭礼です。

牛頭天王は、疱瘡や疫病など流行病の予防神であり、各地に祀られています。当地区では、その昔、山車を出さなかった年に赤痢が流行し、多くの村人が亡くなったという伝説があり、それ以来、肝に銘じた村人は、「前熊の山車は蓑笠でも曳く」と言われるようになった。

しかし、先の大戦中は、祭りの担い手である若い人が不足し、一時期は休止されたが、戦後いち早く復活された。

時代の変化と共に運営組織も変わってきたが、昭和五〇年八月に保存会が設立され、祭りの基本は保存会が継承し、現在まで伝わっている。

この祭礼は、永祿五年（一五六二）頃からと記録されており、旧暦の六月十六日に行われていたが、現在は七月十六日に近い日曜日に行われている。

山車は、梶棒の長さ約五〇九cm

胴山は二一五cm×一三八cmの箱形

屋根の高さ四八六cm

天正五年（一五七七）赤い提灯を点した山車を曳き、高欄で山神楽を奏し、また打ち囃子太鼓を打つと記されている。

この山車は構造・装飾・用材などは、単純・質素で素朴軽量に仕上げられており、名古屋山車の流れを汲む、古い形式を残している貴重なものと言われている。

昭和五八年六月十一日

長久手町有形民族文化財

※参考 昭和六二年（一九八七）七月第二三二号 長久手町の文化財十四